

令和 7年 月 日

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業担当課において数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、その結果に至った要因等を分析した。その検証結果を踏まえ今後の方針を検討するとともに、その評価に透明性、客観性、公正さを反映させるため、学識経験等を有する第三者による事後評価委員会に意見を求めた。	令和7年度 公表の方法 市ホームページにより公表

1. 交付対象事業の進捗状況

上段：計画
下段：実績

採号	事業	地域	交付	直接	事業者	事業及び 省略	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)	全体事業費	備考
----	----	----	----	----	-----	------------	----------	------	------	-------------	-------	----

[illegible]

系	事業	地域	交付	直接	事業者	省略	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）	全体事業費	備考
---	----	----	----	----	-----	----	----------	------	------	------------	-------	----

番号	種別	種別	対象	間接	事業名	工種	(事業箇所)	(延長・面積等)	市町村名	R2	R3	R4	R5	R6	(百万円)	備考
										合計						

事業口	事業	地域	交付	直接	事業者	省略	要素となる事業名	事業内容	土野村名	事業実施期間（年度）	全体事業費	備考
-----	----	----	----	----	-----	----	----------	------	------	------------	-------	----

番号	種別	種別	対象	間接	事業名	工種	(事業箇所)	(延長・面積等)	市町村名	R2	R3	R4	R5	R6	(百万円)	備考
										合計						

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況							
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・都市計画道路の建設等に合わせた雨水管渠の整備により、都市浸水対策達成率が49.0％（R2当初見込み）から49.2％（R6末）に向上した。（＋0.2％） ・ストックマネジメント計画の策定については、施設の適切な維持管理及び管理経費の抑制を図るための点検・調査、改築周期などを盛り込んだ計画ができた。					
II 定量的指標の達成状況	指標①（下水道による都市浸水対策達成率）	最終目標値	49.1％	算定式	$\frac{1,276\text{ha}(\text{※1})}{2,597\text{ha}(\text{※2})}$	目標値と実績値に差が出た要因	定量的指標（下水道による都市浸水対策達成率）について、目標を達成することができた。 都市計画道路建設事業の進捗状況に合わせて整備を積極的に進めた結果、整備率を向上させることができた。また、近年の浸水状況を把握し浸水対策を実施したことで整備率のさらなる向上に繋がった。
		最終実績値	49.2％ (49.8％) (民間開発込み)	算定式	$\frac{\text{計画期間5年間の増減} \quad 1,277\text{ha}(\text{※3}) \quad [+3\text{ha}]}{(1,293\text{ha})(\text{※3}') \quad (+19\text{ha})} \div 2,597\text{ha}(\text{※2})$		
	指標②（ストックマネジメント計画の策定進捗率）	最終目標値	－	算定式	－	目標値と実績値に差が出た要因	計画どおり、ストックマネジメント計画を策定することができた。
		最終実績値	－	算定式	－		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		【指標①】 ・都市計画道路建設事業と連携して雨水管渠整備を行ったため、舗装復旧工の削減など、事業費が縮減できた。 ・過去10年において、下水道管渠(雨水)の能力不足による重大な浸水被害(床上浸水)等は発生しなかった。 【指標②】 ・ストックマネジメント計画の策定により、下水道施設の点検・調査を計画的に進めることに繋がった。					
3. 特記事項（今後の方針等）							
＜指標の数値について＞ 【指標①】 (※1)計画策定年度(R元年度)における、計画最終年度(R6年度)の浸水対策済み面積の目標値 (※2)浸水対策を実施すべき面積 (※3)計画最終年度末(R6年度末)における浸水対策済み面積の実績値（民間開発含まず） (※3')計画最終年度末(R6年度末)における浸水対策済み面積の実績値（民間開発込み）							
＜雨水管渠整備事業＞ ・引き続き都市計画道路建設事業や北信太駅前整備事業と連携し効率的に整備を行う。 ・引き続き浸水状況を的確に把握し、既存施設の活用を図りながら効率的な雨水管の整備を図る。							
＜ストックマネジメント計画策定及び策定に伴う調査等＞ ・ストックマネジメント計画の策定はR元年度からR2年度の期間で作成した。 ・下水道施設の点検・調査を行い、修繕・改築を進める。							

令和 7年 月 日

計画の名称		和泉市における安全で快適な生活環境づくり（その3）（重点計画）										総合計画計画・設計計画（策）						
計画の期間		令和2年度 ～ 令和6年度（5年間）					交付団体		和泉市									
計画の目標		下水道整備により、安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。																
計画の成果目標（アウトカム指標）		・下水道処理人口普及率を89.0%（R2当初見込み）から90.7%（R6末）に増加させる。																
アウトカム指標の定義及び算定式												定量的指標の現況値及び目標値			備考			
												当初現況値	中間目標値	最終目標値				
① 下水道処理人口普及率		下水道を利用できる人口（人）／総人口（人）										R2当初見込み （R2当初） 89.0% （89.1%）		R4末 90.0%	R6末 90.7%	(R2当初)：実績値		
全体事業費		合計 （A+B+C）		1,740 百万円		A	1,740 百万円		B	0 百万円		C	0 百万円		効果促進事業費の割合 C/（A+B+C）		0.0%	

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業担当課において数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、その結果に至った要因等を分析した。その検証結果を踏まえ今後の方針を検討するとともに、その評価に透明性、客観性、公正さを反映させるため、学識経験等を有する第三者による事後評価委員会に意見を求めた。	令和7年度 公表の方法 市ホームページにより公表

上段：計画
下段：実績

A 基幹事業										下段：実績							
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	事業及び施設種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											R2	R3	R4	R5	R6		
A07-001	下水道	一般	和泉市	直接	和泉市	汚水(管渠)	新設	北部処理区・泉北処理区 汚水管渠整備事業	汚水管φ=200～800mm, L=10,500m, 設計 汚水管φ=200～800mm, L=8,666m, 設計	和泉市						1,740	全体事業費は、各年度における 国費額を下水道事業の国費 率1/2で割り戻した額の合計
															1,581.4		
														合計		1,740 1,581.4	

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										R2	R3	R4	R5	R6			
											合計						

番号	一体的に実施することにより期待される効果
----	----------------------

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										R2	R3	R4	R5	R6			
											合計						

番号	一体的に実施することにより期待される効果
----	----------------------

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況							
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・未整備地区の污水管渠整備を進めたことにより、下水道処理人口普及率が89.0％（R2当初見込み）から90.7％（R6末）に向上した。（＋1.7％）					
II 定量的指標の達成状況	指標①（下水道 処理人口普及 率）	最終目標値	90.7％	算定式	167,769人(※1) 184,960人(※2)	目標値と 実績値に 差が出た 要因	定量的指標（下水道処理人口普及率）について、目標を達成する事ができた。 本計画期間中において、家屋が連坦している路線を優先的に整備したことや土地所有者の合意が必要な路線（里道や水路敷、私道など）の整備に積極的に取り組んだ結果、普及率の向上に繋がった。
		最終実績値	90.7％	算定式	計画期間 5年間の増減 165,174人(※3) [-323人] 182,104人(※4) [-3,686人]		【補足】 実績の下水道が利用できる人口の実績値は目標の下水道が利用できる人口を下回ったが、これは、人口変動によるものと考えられる。人口変動が本計画の指標に与える影響を検討した場合、地域によってその差異が見受けられるものの、影響は本計画対象の下水道未整備地区のみならず、整備済地区を含む市全域に及んでいると推察される。算定式における分母・分子の両方が人口変動の影響を受けるため、下水道処理人口普及率という指標そのものが人口変動によって大きく変化するものではないと考えられる。
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		【指標①】 ・河川へ流れ込む汚濁負荷量については、生活系の負荷量が大部分を占めている。下水道の普及を進めることにより、生活系汚濁負荷量の減少、公共用水域（市内河川）の水質改善に影響したと考えられる。					
3. 特記事項（今後の方針等）							
＜指標の数値について＞ 【指標①】 （※1）計画策定年度（R元年度）における、計画最終年度（R6年度）に下水道が利用できる人口の目標値 （※2）平成30年の行政人口から設定した予測値 （※3）計画最終年度末（R6年度末）における下水道が利用できる人口の実績値 （※4）計画最終年度末（R6年度末）の行政人口の実績値							
＜污水管渠整備事業＞ ・本計画期間においても積極的に土地所有者の承諾が必要な路線の整備を進めてきたが、同様の路線がまだ多数残っているため、説明会等を通じて下水道整備の必要性を説明し下水道の普及促進を図る。 ・市街化調整区域では、場所の状況に応じて污水管渠や合併処理浄化槽の整備事業を実施し、市内の公衆衛生の向上、公共用水域の水質保全に努める。							

令和 7年 月 日

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
事業担当課において数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、その結果に至った要因等を分析した。その検証結果を踏まえ今後の方針を検討するとともに、その評価に透明性、客観性、公正さを反映させるため、学識経験等を有する第三者による事後評価委員会に意見を求めた。	令和7年度 公表の方法 市ホームページにより公表

1. 交付対象事業の進捗状況

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
基礎事業	事業	地域	交付	直接	事業及び	省略	要する事業々	事業内容	事業実施期間（年度）
									全体事業費

下段：実績

上段：計画
下段：実績

[illegible]

番号	事業	地域	交付	直接	事業者	省略	要素となる事業名	事業内容 (事業の概要)	市町村名	事業実施期間 (年度)	全体事業費	備考
----	----	----	----	----	-----	----	----------	-----------------	------	-------------	-------	----

番号	種別	種別	対象	間接	事業名	工種	(事業箇所)	(延長・面積等)	単位	R2	R3	R4	R5	R6	(百万円)	備考
										合計						

[illegible][illegible]

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況							
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・ストックマネジメント計画に基づいた点検・調査を行ったことにより、既存下水道施設の健全度を把握することができた。					
II 定量的指標の達成状況	指標①（ストックマネジメント計画に基づいた点検・調査実施率）	最終目標値	100%	算定式	$\frac{1,000\text{箇所}(\text{※1})}{1,000\text{箇所}(\text{※2})}$	目標値と実績値に差が出た要因	点検・調査においては、調査予定箇所に加え、近接部分など施工上適切と判断される箇所も含めて点検・調査を実施したことにより、実施率の向上に繋がった。
		最終実績値	103%	算定式	$\frac{1,029\text{箇所}(\text{※3})}{1,000\text{箇所}(\text{※2})}$ <div>計画期間5年間の増減 [+29箇所]</div>		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		【指標①】 ・既存下水道施設の状況を確認できたことにより、今後の改築・修繕計画の作成に繋がった。					
3. 特記事項（今後の方針等）							
＜指標の数値について＞ 【指標①】 (※1) 計画変更年度 (R2年度) における、計画最終年度（R6年度）までの点検・調査の実施箇所の目標値 (※2) 計画変更年度 (R2年度) における、計画最終年度（R6年度）までの点検・調査箇所の予定箇所数 (※3) 計画最終年度末 (R6年度) までの点検・調査の実施箇所の実績値							
＜和泉市公共下水道改築事業＞ ・引き続きストックマネジメント計画に基づき下水道施設の点検・調査を進める。 ・点検・調査結果より策定した下水道施設の修繕・改築計画に基づき修繕・改築を行う。							

令和 7 年 月 日

事後評価

事後評価の実施体制

事後評価の実施時期

令和7年度

公妻の方法

交付対象事業

A 其齡事業

A	基軒爭來

上段：計画

下段：実績

[illegible]

番号	一体的に実施することにより期待される効果
----	----------------------

事業	項目
----	----

乗込	一体的に実施することにより期待される効果
----	----------------------

※交付対象事業については、できる限り個別路線ごとに

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況								
I 定量的指標に関連する		指標①・・・黒鳥山公園、信太山丘陵里山自然公園及び、全体的な目標は達成していないが、松尾寺公園は目標を達成したため、一人当たり利用面積の拡大は増となった。 総合公園等の一人当たり供用面積 目標1.25㎡ → 実績1.24㎡（整備面積 計画6.9ha → 実績6.6ha）						
交付対象事業の効果の発現状況		指標②・・・老朽化した遊具の更新計画1箇所のうち、1箇所の実施となり、目標は達成したため、遊具利用の安全性は向上した。 老朽化した遊具を更新した公園割合 目標100% → 実績100%（改築公園数 計画1公園 → 実績1公園）						
II 定量的指標の達成状況	指標①（全市民に対する総合公園等の一人当たり供用面積）	最終目標値	1.25㎡／人	算定式	$\frac{((8.8\text{ha}+2.9\text{ha})+7.7\text{ha}+0.6\text{ha})+3.4\text{ha}}{186,000\text{人}}$	目標値と実績値に差が出た要因	黒鳥山公園においては要望額に満たない交付額であったこと及び、民間活力の導入など、計画を一部変更したため、実施設計等の作業を追加したことにより、目標である供用面積3.5ha増の達成には至らなかったが、概ね予定通りである。 松尾寺公園においては園路等の整備は終えており、目標である0.6ha以上の整備は完了し、目標達成に至った。また、西側エリア全域の整備が完了し、供用エリア全体の周遊が可能となり、大幅に整備が進むことになった。 信太山丘陵里山自然公園においては、要望額に満たない交付額であったため、目標の達成には至らなかったが、西側エリアの整備完了により、令和6年度に予定通り開園した。東側エリアは供用に至っていないが、工事は着手しており、概ね予定通り進んでいる。	
		最終実績値	1.24㎡／人	算定式	$\frac{((8.8\text{ha}+2.8\text{ha})+7.7\text{ha}+1.5\text{ha})+2.3\text{ha}}{186,000\text{人}}$			
	指標②（公園施設長寿命化計画に基づき更新が完了した公園数の割合）	最終目標値	100%	算定式	1公園/1公園	目標値と実績値に差が出た要因	当初、長寿命化計画により、優先順位の高い1公園の更新を計画した。予定通り1公園の更新を行い、目標としていた公園数の達成に至った。	
		最終実績値	100%	算定式	1公園/1公園			
		最終目標値		算定式		目標値と実績値に差が出た要因		
		最終実績値		算定式				
	III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）		・総合公園等の整備においては、周遊可能な園路整備による歩行空間の快適性の確保及びインクルーシブ機能を有した複合遊具等の整備による快適な施設利用を図った。 ・信太山丘陵里山自然公園では西側エリアや拠点施設の整備により、令和6年度に開園することができ、保全活動の推進や快適な施設利用が図った。 ・老朽化した遊具の更新により、利用者の安全確保と安心感の向上につながった。					
	3. 特記事項（今後の方針等）							
・都市公園事業で整備を行っている黒鳥山公園（A12-003）については、市街化区域の中にあり防災公園としての位置付けもあることから、今後大きな役割を果たす公園と認識しており、早期供用や市民ニーズがある飲食店の整備を目指し、民間活力の導入と併せて整備を進める。また、松尾寺公園（A12-004）については、市街化調整区域に位置しているが、和泉中央丘陵新住宅市街地開発事業「トリヴェール和泉」開発地の南端に近接しており、公園近辺の住宅開発も完了し住宅が建ち並んだため、今後さらなる公園利用者の増加が見込まれることから継続して事業を行っていく。 ・自然豊かな信太山丘陵里山自然公園（A12-001）を、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習の場として令和6年一部開園した。引き続き全面開園を目指して整備を推進していく。 ・遊具等、老朽化した公園施設の更新等（指標②）については、「和泉市における安全、安心な公園・緑地環境づくり（第一期）」の公園施設長寿命化計画（A12-003）に基づき計画的に実施していく。								

令和 7 年 月 日

事後評価

事後評価の実施時期

令和7年度

令和7年度

公表の方法
市ホームページにより公表

上段：計画
下段：実績

下段：実績

A 涂料类	
项目	工

B	関連社会資本整備事業
---	------------

番号	一体的に実施することにより期待される効果
----	----------------------

事業	項目
----	----

番号	一体的に実施することにより期待される効果
----	----------------------

1

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況								
I 定量的指標に関連する		指標①・・・ 黒鳥山公園・松尾寺公園ともに目標は達成していないが、黒鳥山公園はインフラ施設の整備や造成等、松尾寺公園は対象エリアの実施設計を行っており、供用面積は増えていないが、事業としての進捗はあった。また、前年度及び次年度以降は社会資本整備総合交付金の5か年整備計画で進めた。 総合公園等の一人当たり供用面積 目標0.93.㎡ → 実績0.88㎡（整備面積 計画0.74ha → 実績0.00ha）						
交付対象事業の効果の発現状況		指標②・・・ 老朽化した遊具の更新計画31箇所のうち、33箇所の実施となり、目標は達成したため、遊具利用の安全性は向上した。 老朽化した遊具を更新した公園割合 目標100% → 実績106%（改築公園数 計画31公園 → 実績33公園）						
II 定量的指標の達成状況	指標①（全市民に対する総合公園等の一人当たり供用面積）	最終目標値	0.93㎡／人	算定式	$\frac{((8.8\text{ha}+0.4\text{ha})+(7.7\text{ha}+0.34\text{ha}))}{186,000\text{人}}$	目標値と実績値に差が出た要因	黒鳥山公園は計画地の工事は実施したが、造成や雨水排水等のインフラ設備を先行して整備しており、一般供用できる状況ではなかったため、目標達成には至らなかったが、概ね計画通り進んだ。 松尾寺公園は西側エリアで周遊可能な園路等の実施設計を行ったため、供用面積は目標達成に至らなかったが、別途5か年計画にて整備目標を達成した。	
		最終実績値	0.88㎡／人	算定式	$\frac{((8.8\text{ha}+0\text{ha})+(7.7\text{ha}+0\text{ha}))}{186,000\text{人}}$			
	指標②（公園施設長寿命化計画に基づき更新が完了した公園数の割合）	最終目標値	100%	算定式	31公園/31公園	目標値と実績値に差が出た要因	当初、長寿命化計画により、対象の公園数を31公園予定していたが、緊急な更新が必要な遊具の費用が追加で交付されたことや、更新が必要な優先度合を適宜見直し33公園の更新を行い、目標としていた公園数を達成することができた。	
		最終実績値	106.5%	算定式	33公園/31公園			
			最終目標値		算定式		目標値と実績値に差が出た要因	
			最終実績値		算定式			
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）		・ 総合公園等の整備においては、インフラ施設の整備及び、周遊可能な園路整備による快適な歩行空間の確保を図った。 ・ 老朽化した遊具の更新により、利用者の安全確保と安心感の向上につながった。						
3. 特記事項（今後の方針等）								
・ 都市公園事業で整備を行っている「和泉市におけるみどり豊で安全、快適な公園・緑地環境づくり（第三期）」の黒鳥山公園（A12-003）については、市街化区域の中にあり防災公園としての位置付けもあることから、今後大きな役割を果たす公園と認識しており、早期供用や市民ニーズがある飲食店の整備を目指し、民間活力の導入と併せて整備を進める。また、「和泉市におけるみどり豊で安全、快適な公園・緑地環境づくり（第三期）」の松尾寺公園（A12-004）については、市街化調整区域に位置しているが、和泉中央丘陵新住宅市街地開発事業「トリヴェール和泉」開発地の南端に近接しており、住宅が建ち並んだため、今後さらなる公園利用者の増加が見込まれることから継続して事業を行っていく。 ・ 遊具等、老朽化した公園施設の更新等（指標②）については、公園施設長寿命化計画（A12-003）に基づき計画的に実施していく。								